

(別紙3) 高校・中学校ヒアリング結果

種別(学科等)	体制/技術	問題
A高校 普通科	技術	新たにSNSを用いた情報発信をやってみたいが、リソースとノウハウがない。
	技術	編集端末が1つしかなく複数人同時編集ができないため、投稿のネタが収集に対して編集が追い付かない。
	体制	中学生目線の広報活動ができていない。
	技術	広報活動のPDCAチェックと分析ができていない。
	技術	素材を効果的に編集できる人材がいない。
	技術	SNSの活用方法・編集技術・ノウハウ・マンパワー不足
	体制	ソフトウェア等を使用するにも、ランニングコストの捻出が難しい。
	体制	各学校のアピールだけでなく、府立高校全体のPRが足りていない。
B高校 定時制	技術	パンフレット制作などを代行できる仕組みがほしい。
	技術	Xの運用を行いたいだが、継続が難しい。
C高校 文理学科	体制	タイムリーな修正を行うため、HP更新などは担当者決裁で運用しているものもある。
	技術	各コンテンツ閲覧数や属性の確認は行っているが、分析～次アクションに落とし込めていない。
	技術	もっと思いを伝えたいと考えているが、どうしたら今以上に伝えられるのかわからない。
	技術	学科以外の特色をどうすれば効果的に様々な方に伝えることができるのかわからない。
D高校 総合学科	体制	校長裁量の予算から、HP改修などの費用捻出はむずかしい。
	体制	広報の専門家がない状況で、更新頻度を上げたくても出来ない。
E高校 普通科	体制	人員不足のため数値分析～次アクションまで手が回らない。
	技術	作業人員と戦略の不足で作業効率を上げられない。
F高校 工科高校	体制	個人端末での撮影ができず、撮影のハードルがかなり高くなった。
	体制	工科高校においては、中学校や塾などからの働き掛けも重要。学校を知ってもらうだけでなく、興味関心と結びつける工夫が必要。
G高校 総合学科	技術	素材集め・投稿に手間がかかるため、SNSを実施するハードルが高い。
	体制	投稿フローを作成したが、校内体制が不十分のため浸透していない。
	技術	何をアピールすべきかわからない。
H高校 普通科単位制	技術	広報に詳しい人材がおらず手探りの状態で進めており、非効率。
	技術	HP分析の方法がわからない。
I高校 普通科	体制	(人材不足により) 広報活動が属人化している。
	体制	広報活動の知識なしで動いていることが不安。(広報に詳しい人材がいない)
中学校 (共通)	技術	私立高校＝個別最適化指導、公立高校＝全体指導という勝手なイメージが定着している。
	技術	中学校の先生に公立高校の魅力が伝わっていない。
	技術	私学のほうが卒業後の進路指導に強いイメージがある。
	技術	公立高校の先生自体に魅力があるが、そのようなポイントが伝わっていない。
	技術	公立高校のパンフレットは、内容は充実しているが読んでいて疲れてしまう構成になっている。
	体制	高校間でも広報活用に対する意識に差がある用を感じる。
	体制	公立高校間で、広報活用に関する連携などがあってもよい。
	体制	公立高校は私立高校と比較すると、中学校に対するPRの回数が少ない。
	技術	特別学習についての情報が私立に比べて少ない。
	技術	人間性の育成・スクールカウンセラーや教育相談の充実さなど、学習内容以外の部分も積極的に発信すべき。
	技術	HPやパンフレットで先生の露出が少なく、リアルな様子が伝わりづらい。